

〈名画の扉〉

大川美術館展示から



「アッカドの椅子I」

油彩・カンバス
130.3cm×162.1cm

藤井令太郎 (1913〜80年)

「椅子の画家」といわれる藤井令太郎は、長段として、本来人間が野鼻に生まれます。中いなければ成り立たな学の時、胸膜炎になり「椅子」という存在を2年間の療養を余儀なくされ、その時期に芸術の道を志すようになった。

「椅子の画家」といわれる藤井令太郎は、長段として、本来人間が野鼻に生まれます。中いなければ成り立たな学の時、胸膜炎になり「椅子」という存在を2年間の療養を余儀なくされ、その時期に芸術の道を志すようになった。

「形態から見ても人間の五体に相当するものが全部揃っており、前面あり、背面あり、側面もありで甚だ変化に富んでいるとおもうのである」とは、画家の言葉です。

(池田)